

IFI '95 NAGOYA

インテリア新しいうねりの創造
INTERIORS : NEXT WAVE

「IFI '95 名古屋」閉幕、念願の成就に感謝
貴重な経験を今後のために

JID 理事長
IFI '95 名古屋実行委員会委員長 長岡 貞夫

「IFI '95 名古屋」は、お陰様で盛況裡に無事幕を閉じることができました。これもひとえに多くの方々のご協力とご支援の賜と感謝いたしております。

とりわけ、実務を担った本部、各支部の委員、実行委員と事務局の皆さんには、昼夜を厭わず業務に精励されました姿には、感銘すら覚えるものでありました。ご苦労さまでした。そして、ありがとうございました。

ご承知のように、会期中の参加登録者数（1,351名）とフェアの一般入場者数（45,000余名）共、主催者の予想を遙かに上回り、IFI 会議始まって以来の規模となりました。

このことは、広報活動の効果もさることながら、インテリアデザインに対して、多くの人々が関心と期待を抱いていたことと、会議の時期がタイムリーであったことも、このような成功をもたらしたものと云えましょう。

会議に対する評価は、参加された各自、個々に委ねられるとしても、海外からの参加者の多くから耳にした、会議はパーフェクトであったとの賛辞は、あながち外交辞令ではなく、彼等の心からの感謝の気持ちの表われであったと、受け止めることが出来ましょう。このことは国際会議の所期の目的である国境を越えた真の交流が成就できた証とも云えましょう。

JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1995 10・11

「目次」

特集／「IFI '95 名古屋を振り返って」

- 「IFI '95 名古屋」閉幕、念願の成就に感謝……………1
- 「IFI '95 名古屋」を終えて……………2
- 第17回 IFI 総会（名古屋）議事報告……………3
- 目で見える「IFI '95 名古屋」……………5
- 「IFI '95 名古屋／世界インテリアデザイン会議」
総括とアピール……………26
- 海外から届いた礼状……………27
- APSDA '96 予備会議を終えて……………28
- 1995 年「JID 賞」選考結果と表彰式……………29
- 1995 年「JID 賞」受賞者
来間 一三……………30
丸谷 芳正……………30
根立 光夫……………31
- 平成7～8年度「選考委員選挙」の報告……………31
- デザイン行政を貿易局から産業政策局へ移管……………32
- 平成7年度・第2回理事会報告……………32
- 平成7年度・第3回理事会報告……………35
- 「世界のインテリアデザイナー作品集」……………37
- 平成7年特定サービス産業実態調査……………37
- 次期「役員」選挙の投票……………37
- 新入会員の紹介……………37
- 会員の異動……………39
- グリーンデザイン・チェックリスト（後編）
- 第17回 IFI 総会（名古屋）報告
- 「IFI '95 名古屋／世界インテリアデザイン会議」要旨

また、JID と各界との交流の場として設けた「JID ハウス」も連日盛況であったことを付記しておきます。

テーマ、INTERIORS: NEXT WAVE は、さまざまな視点からビジブルに、インビジブルに名古屋、日本から発信されました。近い将来、この新たな波がさまざまなかたちで社会に還元されることが期待されましょう。

そして、JID にとって今回の会議が何であったかを問うとき、まず、会議イベントを通じて、各方面にインテリアデザイン「JID」に対する認識と理解を深めることができたこと、そして、国際会議を主催した実績が貴重な経験として、有形無形のノウハウとして蓄積され、今後の JID の国際化はもとより、協会活動の活性化と発展に寄与することでしょう。

会議は、多くの人々の結集した力で、昨今の困難な状況を乗り越えることができました。シカゴでの招致の準備を含めて 5 年有予、会議開催に関わった皆さんの真摯な仕事を称え、会議から多くの成果が得られましたことに対しまして、厚くお礼を申し上げます。

「IFI '95 名古屋」を終えて

JID 事務局長
運営会事務局次長 森谷 延周

10 月 2 日～3 日の第 17 回 IFI 総会に続いて、10 月 4 日～6 日、「インテリア — 新しいうねりの創造」をテーマに、アジアで、日本で初めての「世界インテリアデザイン会議」が開催されました。

会議参加者は、当初予定の 1,000 人を大きく上まわり 1,351 人となり（35.1%増）、また海外からの参加を 1,000 人の内、200 人と見込みましたが、こちらの方も 257 人（28.5%増）となり、主催者側として嬉しい結果となりました。特に、海外参加は、韓国 44 人、インド 35 人、中国 22 人、台湾 17 人など、アジアからの参加が目立ちました。また、メインイベントの「国際インテリアデザインフェア」には、予想入場者数 30,000 人に対して、45,000 人（50%増）となり、配布物も底をつく結果となりました。

なお、参加登録者の確保について、会員の方々に多くの協力を得ましたが、JID が関与した参加登録者数は会員 164 人、会員外 262 人の計 426 人となりました。ご

協力ありがとうございました。

会議は、21 世紀を視野に入れたインテリアデザインのあり方をさまざまな角度から討議し、提案が行われ、分科会の会場はいずれも満席に近い状況でした。そして、閉会式では長岡実行委員長が、会議の総括を行い、最後に参加者の総意でアピールを採択し、意義深い国際会議とすることができました。

盛況裡のもとで閉幕しましたが、関係者が長い年月汗を流しながら積み上げたものが、結果として大きく実り、本当に良かったと思います。

今号の「JID NEWS」では、都合で参加出来なかった会員の方々に、できるだけご理解頂けるように努めさせて頂きました。

運営会事務局は、閉幕直後に関係責任者による挨拶まわりを終え、現在は事後処理の最中ですが、その中心は総括としての「報告書」づくりです。これらに区切りがつけば、来年 2 月頃には解散の予定です。

●世界インテリアデザイン会議参加者数

会期: 10/2～10/6(IFI 総会: 10/2・3、会議: 10/4～10/6)

	人 数	備 考
国 内	1,094 人	
海 外	257 人	36ヶ国・地域
計	1,351 人	

(注) 予定会議参加者数 1,000 人

●国際インテリアデザインフェア入場者数

会期: 10/4～10/8

	人 数	累 計
10/4	7,200 人	7,200 人
10/5	7,800 人	15,000 人
10/6	6,800 人	21,800 人
10/7	10,800 人	32,600 人
10/8	13,200 人	45,800 人

(注) 予想入場者数 30,000 人

●海外参加国・地域内訳

オーストラリア 9名	オーストリア 1名	ブラジル 2名
◎中国 22名	チェコ 1名	デンマーク 2名
エストニア 3名	フィンランド 2名	フランス 2名
ドイツ 2名	ガーナ 2名	ギリシャ 2名
アイスランド 2名	●インド 35名	インドネシア 5名
イラン 1名	アイルランド 6名	イスラエル 5名
イタリア 3名	●韓国 44名	○マレーシア 11名
ノルウェー 4名	○フィリピン 14名	スロバキア 1名
南アフリカ 8名	スリランカ 1名	スウェーデン 7名
スイス 1名	○台湾 17名	○タイ 14名
○オランダ 12名	トルコ 1名	イギリス 5名
アメリカ 7名	ウルグアイ 1名	ベネズエラ 2名

合計 257名

○10人以上 ◎20人以上 ●30人以上参加

第 17 回 IFI 総会（名古屋）議事報告

JID 代表／泉 修二・中川 千早・小宮 容一

会期：1995 年 10 月 2－3 日 9：00－17：00

会場：名古屋国際会議場・国際会議室

クロード・ベルーベ理事長が、挨拶に続いて定足数を確認し開会を宣言。

議事：

1. 動議：SDI（アイルランド）が、イギリスの姉妹団体 CSD の IFI 並びに ICOGRADA（国際グラフィックデザイナー連盟）脱退について動議を提出した。
内容：「IFI は、有効団体と共に相互を尊重し、同等の立場で共通の目的を持ち、より緊密な協力関係を築くために、さらなる手段を講じる」。

結論：非採択

2. 1993－94 会計報告：承認
3. 1993－95 理事事業報告：承認
4. 理事選挙管理委員長任命

5. 理事選出：マリアン・フラングセン次期理事長（デンマーク）、中川帛子（再任、JID）、アンリ・クレー（再任、フランス）、デスモンド・ローブシャー（南アフリカ）を選出。（規約により、新理事長デニス・ハンディ（アイルランド）、前理事長クロード・ベルーベ（カナダ）は留任）。

6. 1996－97 会費改訂承認並びに同予算案承認

7. 提携団体挨拶：ECIA（ヨーロッパインテリアデザイナー会議）、ICOGRADA、ICSID（国際工業デザイン団体協議会）。

8. 新規加入団体承認

- 正規会員：IIID（インド）、IDA（ホンコン）、TIDA（タイ）、ESL（エストニア）、CSID（タイワン）、PIID（フィリピン）。
 - 準会員：IDI（ナイジェリア）、IDA（シンガポール）。
- 臨時準会員：EDCK（オランダ）。
- 通信会員：E バルボサ（ポルトガル）、Z.B. レコ（クロアチア）。

9. 地域代表制提案

主旨＝理事会の構成を理事長、前理事長、次期理事長、地域代表理事とする／地域はヨーロッパ、アジア・太平洋、アフリカ・中近東、北アメリカ、南アメリカの 5 地区とする／地域代表理事の理事会参加の費用は、各地域並びに所属協会が負担する。

討議：地域間の加盟団体数の格差、費用負担に対する反対意見など。

結論：修正採択（所属団体で地域区分や費用負担の討議を経て、6 ヶ月以内に IFI に意見提出。IFI 理事会は提案を補正して再度提議）。

10. IFI 情報の個人向けサービス提案

主旨：加盟団体に参加する個人が IFI に登録し、情報提供を受ける。

討議：個人の登録料負担増、業務量増大懸念、IFI が情報を公開し、個人が通信で取り出せば良いなど反対意見。

結論：否決。

11. 関連団体との国際的協力活動提案：ICOGRADA、ICSID などとの一層の連携。

主旨：最近の ICSID との関係不調と認めていない World Design Council（世界デザイン機構）の独断先行に対する牽制。

結論：採択。

12. 2001 年総会開催国

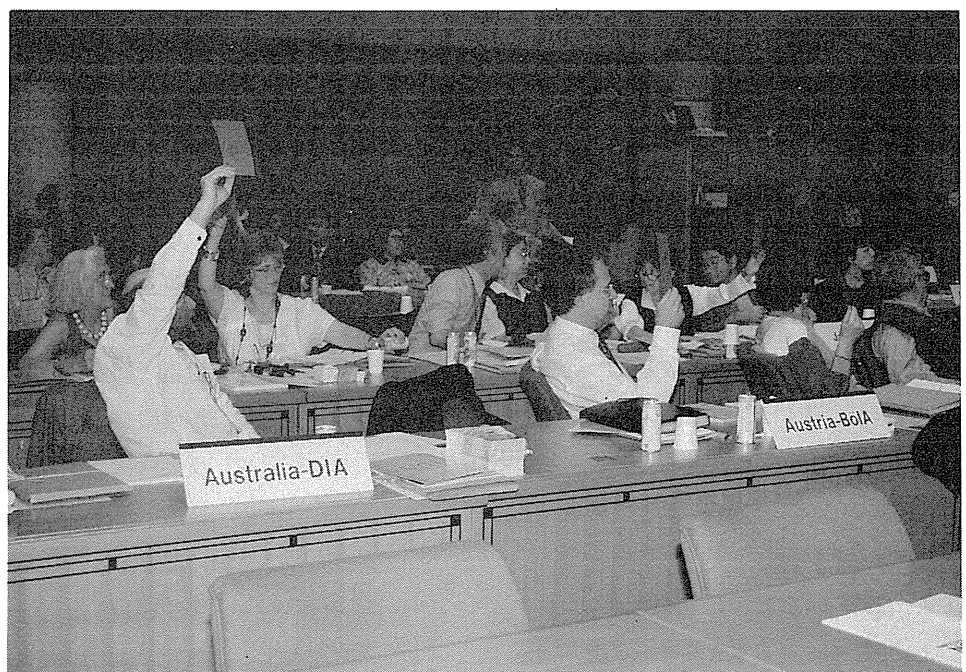
SDSA（南アフリカ）と AIAI（イスラエル）が立候補し、南アフリカに決定。

13. 1999 年総会開催国

DIA（オーストラリア）と ABD（ブラジル）が立候補し、ブラジルの辞退により、オーストラリアが ICOGRADA、ICSID などとの合同国際会議地に決定。



第17回IFI総会の会場（名古屋国際会議場・国際会議室）における
討議の様子



討議のあとの表決は、各国代表が
青いカードを示して、意思を示す
ようになっている

14. 1997年アイルランド国際会議の予定内容報告。

15. その他。

（当総会には、IFI理事として中川帛子JID理事が、JIDからは長岡貞夫理事長の任命で代表（代表権1名）として泉 修二副理事長、中川千早本部国際委員長、小宮容一関西IFI '95委員長の3名が出席した）。

（1995年10月31日／JID本部・国際委員長

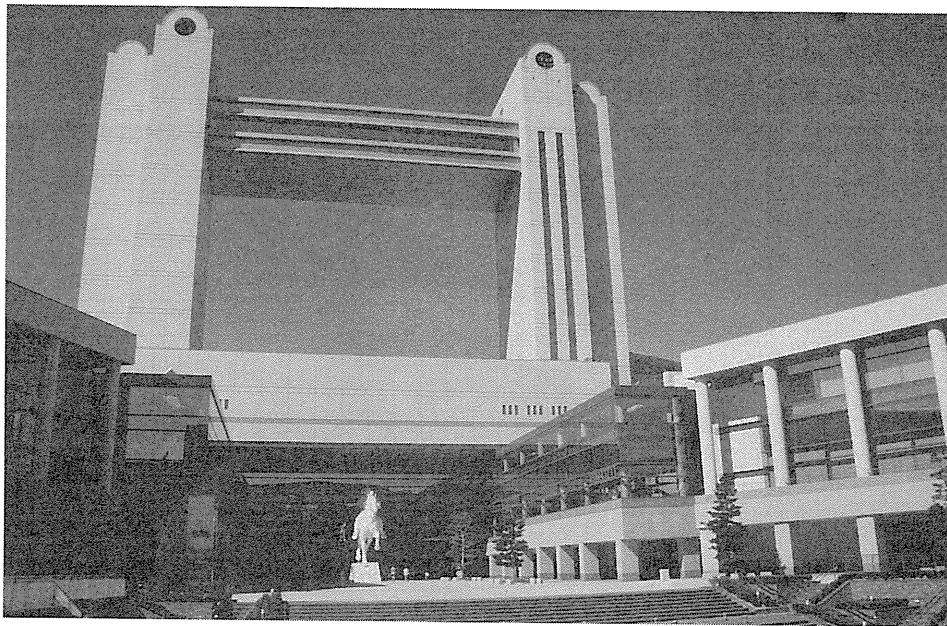
中川 千早 記）

●会員の皆様へ

JIDとして意見を求められている「地域代表制」（第9項目）について、ご意見を本部国際委員会へFAXにてお出しください（'96年1月末まで）。

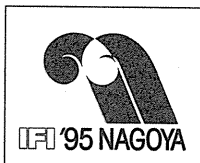
また、先日皆様に募集しました「登録制による情報サービス」は、総会にてさまざまな異論が出ておりますので、結論が出るまで取り扱いを保留いたします。

（本部・国際委員会）

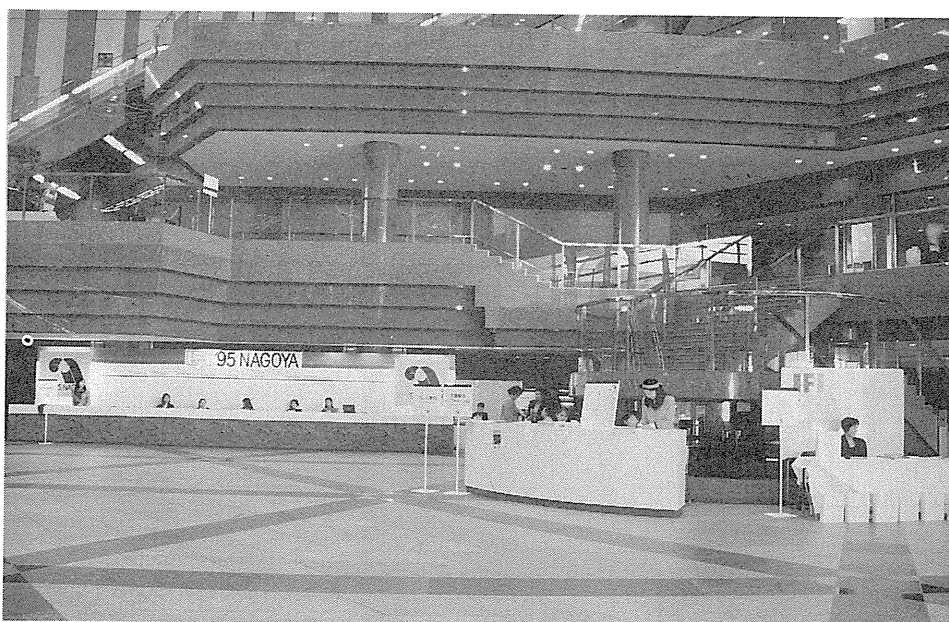


目で見ると 「IFI'95名古屋」

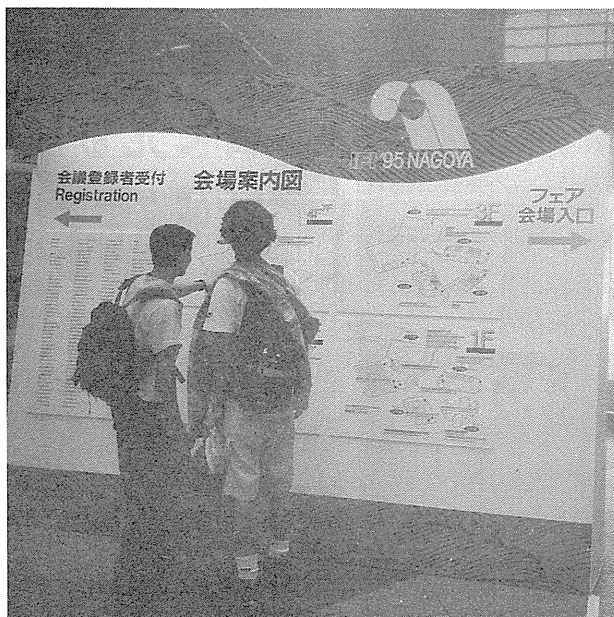
「IFI'95名古屋」は、1994年10月にリニューアルオープンした「名古屋国際会議場」で開催された



正面玄関に設置されたサインボード



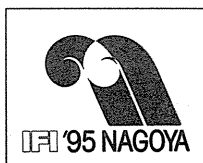
正面玄関入って左側、参加登録受付及び案内所



正面玄関入って正面、会場案内図



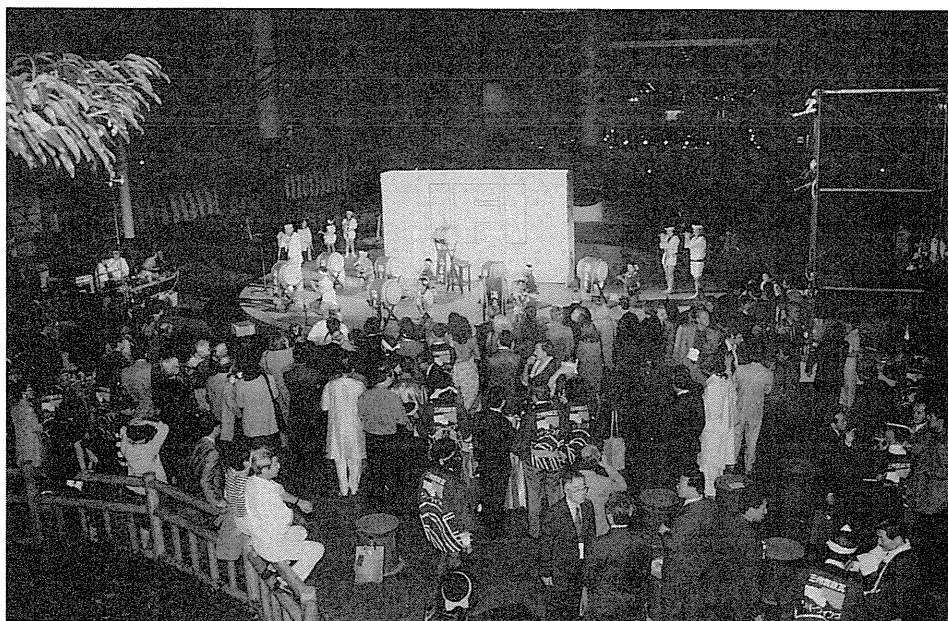
1階アトリウムに下げられた懸垂幕



10月3日夜、オアシス広場にて
「前夜祭」、中部デザイン協議会
による「酒樽みこし」の入場



長岡実行委員長らによる「鏡割り」



オアシス広場の一角、前夜祭のメインステージ、法被姿は実行委員



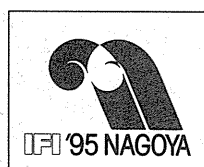
アトラクション「こまのおっちゃん」



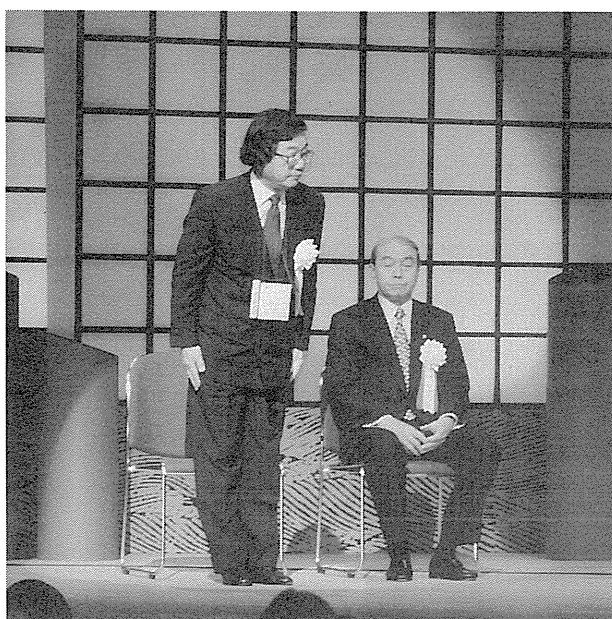
アトラクション「海東流神楽太鼓」



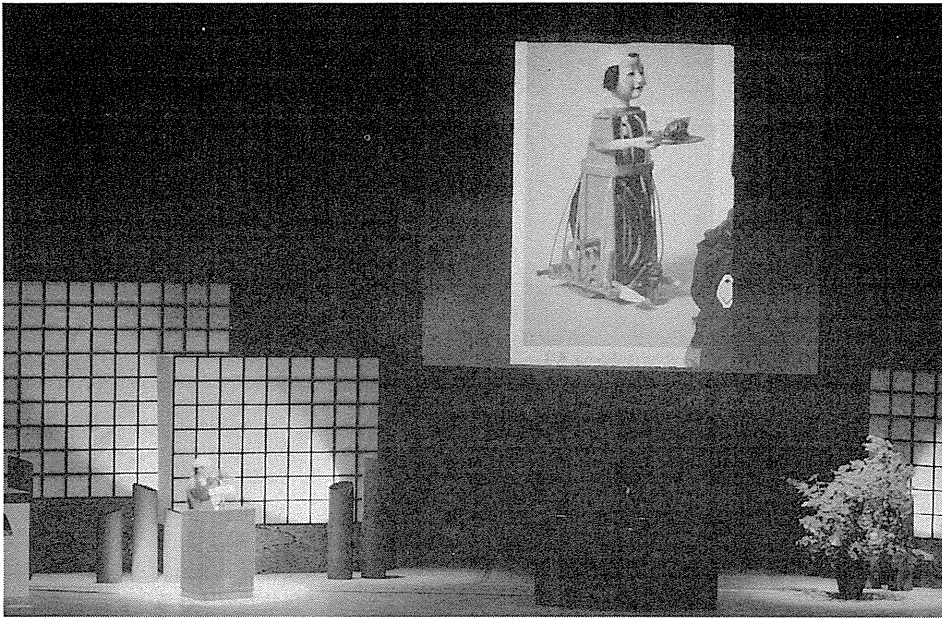
10月4日朝、1階アトリウムにて、「国際インテリアデザインフェア」開会式でのテープカット



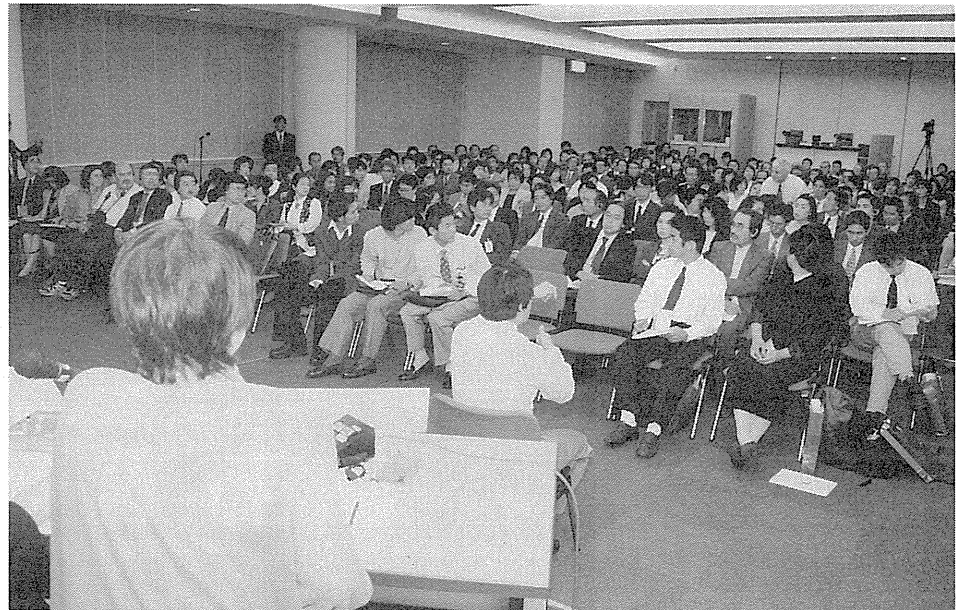
10月4日10時、センチュリーホールにて開会式、挨拶するクロード・ペルーベ IFI 前理事長



開会式で一礼する長岡実行委員長、右は谷口運営会会長



10月4日10時30分、センチュリーホールにて、基調講演「不易流行－乾坤の変」 多田 道太郎（京都大学名誉教授）



分科会における質疑応答



デザインフォーラムにおける討議



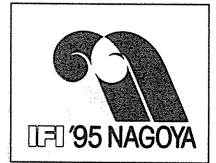
10月4日夜、名古屋ポートハウスにて「ウェルカムパーティー」、日本の伝統芸術「歌舞伎」口上



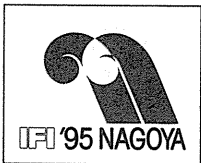
ウェルカムパーティー、ライトアップした南極観測船「ふじ」の点灯セレモニーも行われた



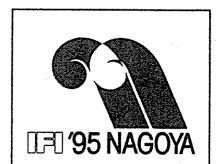
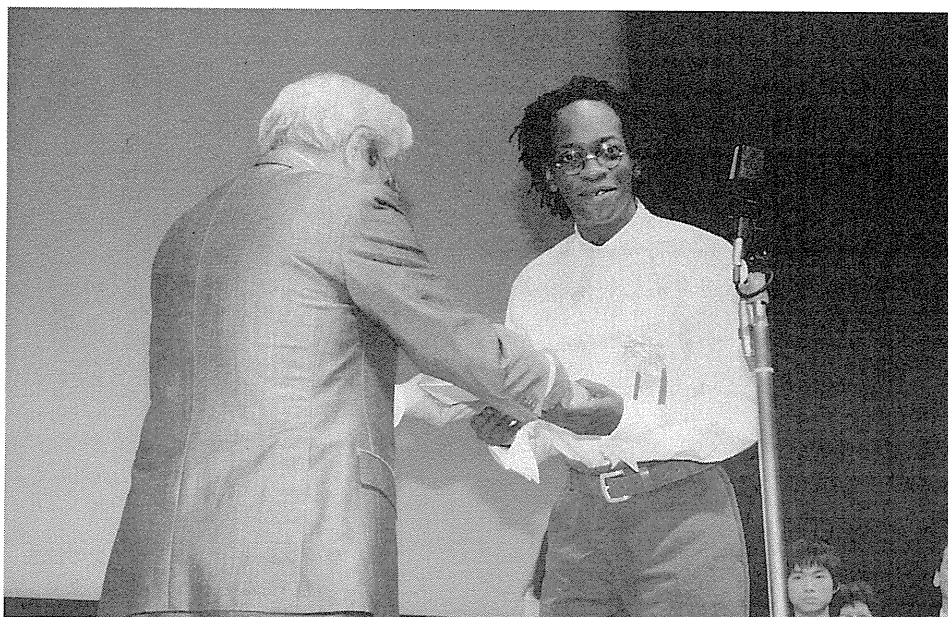
乾杯の音頭は、デニス・ハンディ IFI 新理事長



各国出身のアーティストによる特色のあるサウンドの披露、中央で踊るのは、JIDA 木村理事長



豪快に炎を吹く「手筒花火ショー」は圧巻だった



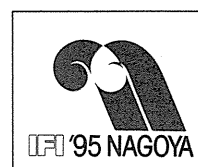
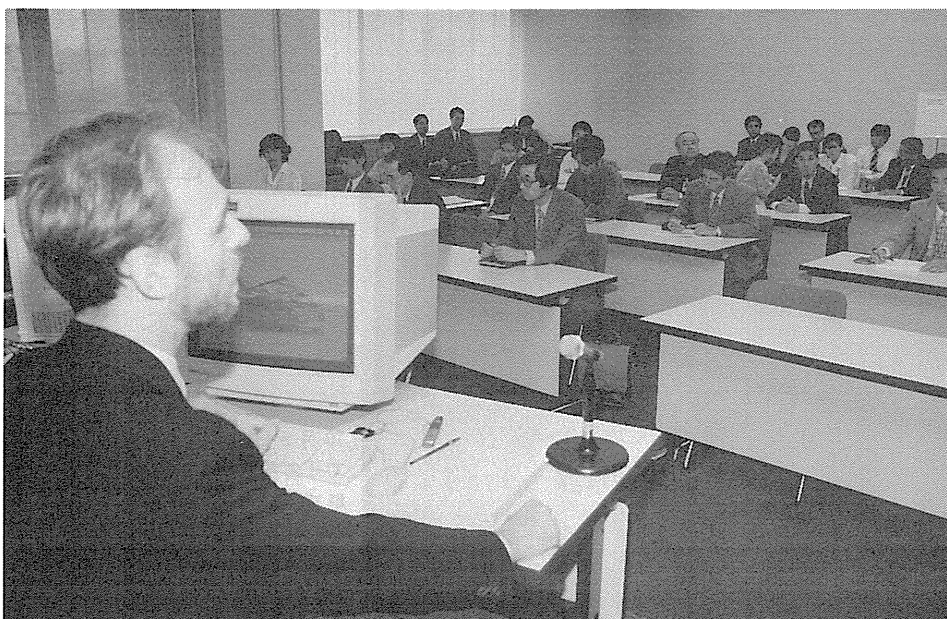
10月5日、センチュリーホールにて「名古屋国際デザインコンペ」表彰式。グランプリを授与されるオラデレ・クク氏（ナイジェリア）応募点数は世界41ヶ国・地域から375点



審査講評を述べる清水忠男最終審査員（JID 会員）



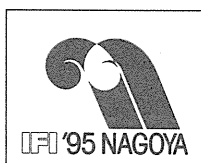
10月5日、記念シンポジウム「生活環境の未来 — 包み込まれた秩序」の3人のパネリスト



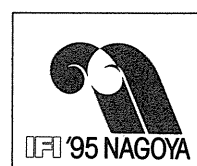
ワークショップ「デザインの技法 — 使いこなそうコンピュータ」



10月5～6日、高山分科会（視察ツアー）シンポジウム「伝統的な木の技術」、飛驒の里（民家の博物館）



その民家の中で、木の技術と産業、デザインとの関わりを話し合った



10月6日10時～12時、センチュリーホールにて「全体会」。テーマは「その時デザイナーは何をするのか」、コーディネーターをつとめた中村隆一 JID 会員（京都市立大学教授）



「全体会」のパネリスト、左より夢
童由利子、デニス・ハンディ、諸星
和夫、福田繁雄、鬼頭 梓の諸氏



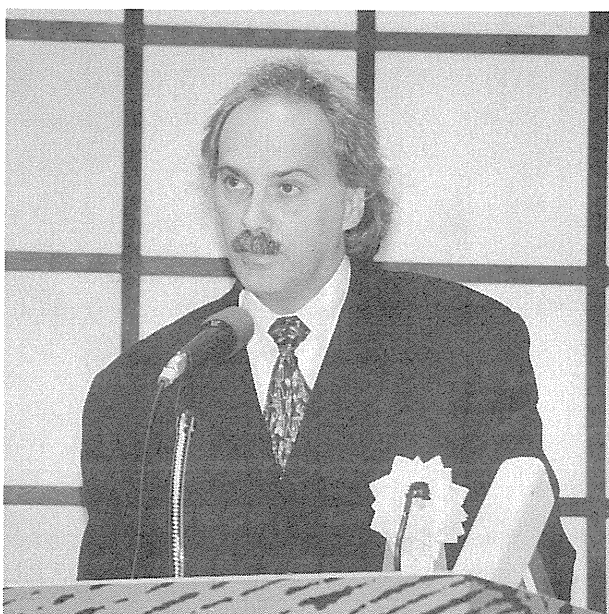
10月6日、センチュリーホールにて
「IFIアワード」。紹介されるマリア
ンヌ・フランダセン IFI 次期理事長



「IFIアワード」にて一礼する長岡実行委員長



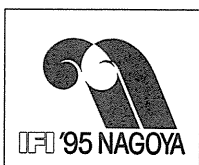
「IFIアワード」としての「IFI賞」
を授与された剣持デザイン研究所
(所長／松本哲夫)の関口正巳チー
フデザイナー（代理として出席）



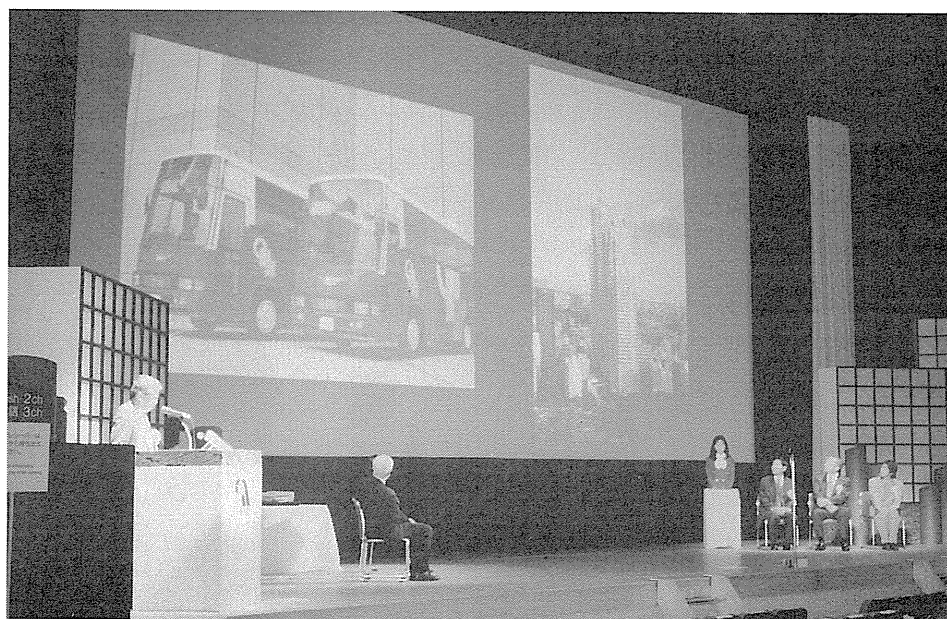
受賞をスピーチしたクロード・ペルーベIFI前理事長



お礼の言葉を代読する関口正巳チーフデザイナー（JID 会員）



10月6日、センチュリーホールで1995年
「JID賞」表彰式。島崎 信選考委員
長が、スライドを加えて審査講評を
行った。

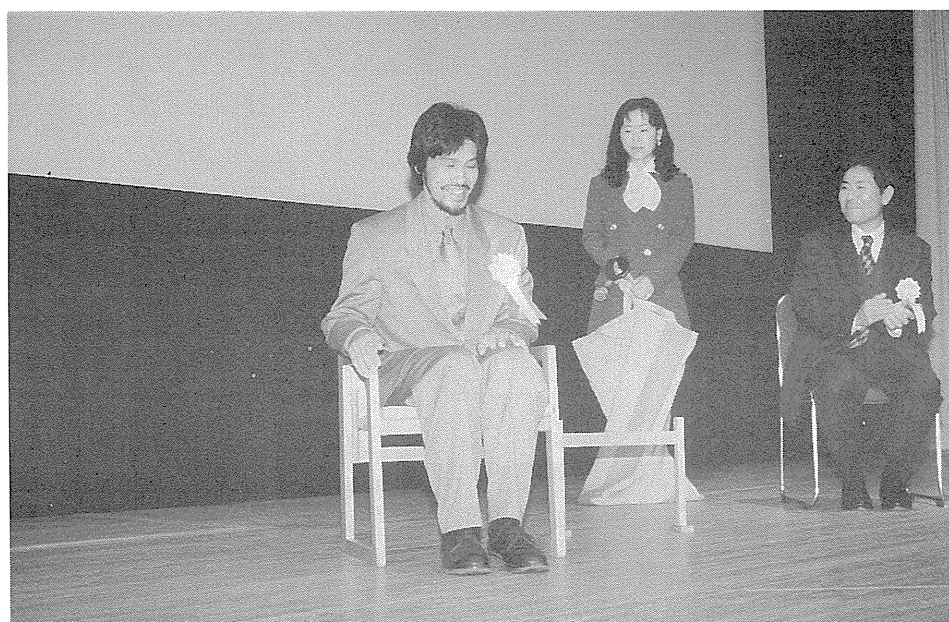




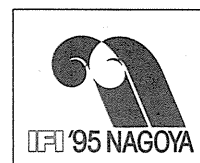
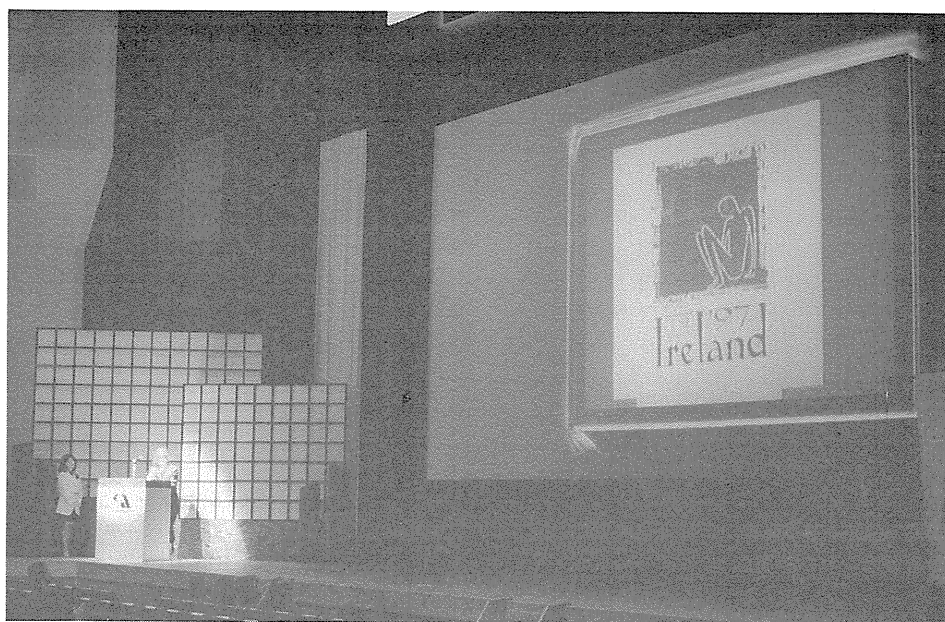
賞盾を受ける JID 賞スペース部門
／来間一三氏（竹中工務店）



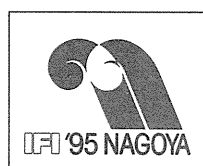
賞盾を受ける JID 賞インテリア研究
・著作・業績部門／根立光夫氏（リ
ビング・デザインセンター）



自作に座ってパフォーマンスを行う
JID 賞インテリアスペース部門協
力賞／丸谷芳正氏（設計工房 M
and M）



10月6日、センチュリーホールにて IFI'97 開催国アイルランドのプレゼンテーション



10月6日、センチュリーホールにて「閉会式」、会議の総括を述べ、アピールを呼びかけた長岡貞夫実行委員長



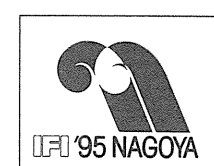
壇上に実行委員が勢揃い、次期開催国アイルランドへのバトンタッチのパフォーマンス



10月6日、レセプションホールにて「フェアウェルパーティ」、会期中のスライドのスナップを見ながらドリンク



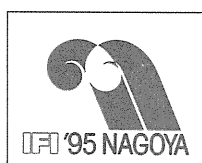
参加国インドのメンバーによるパフォーマンスステージ



デザイナーパフォーマンス「水墨一筆書き」田家阿希雄氏、斎藤武行 JID 会員の笛に合わせて、描き終えたところ



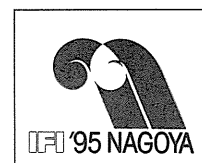
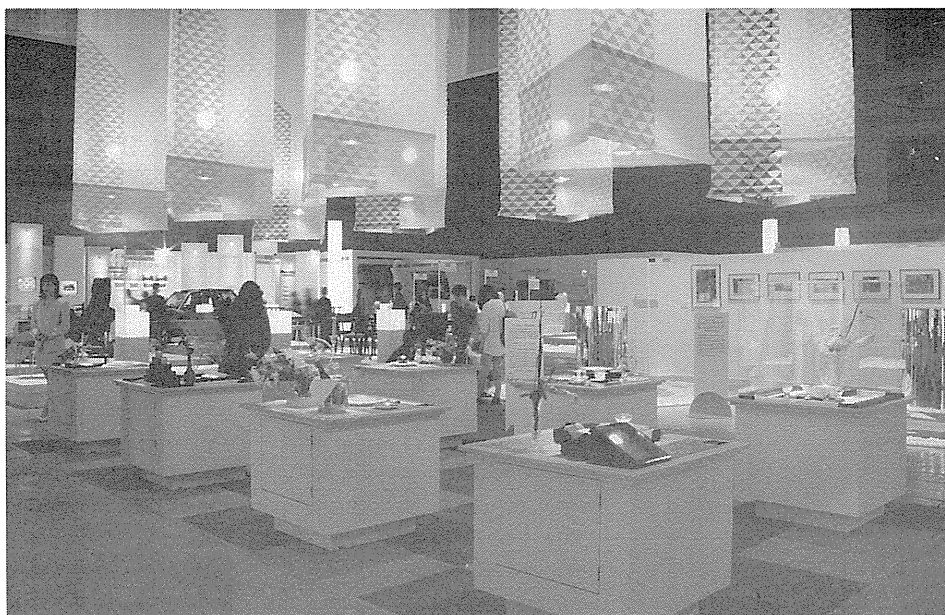
JID の法被を着てピアノを弾く、
シンシア・ウィルソン IFI 事務局長



参加国韓国のメンバーによる
パフォーマンスステージ



フェアウェルパーティにて、缶ビールを片手に中締めを行う運営会宇賀事務局長（JID 会員）



10月4日～8日、イベントホールにて国際インテリアデザインフェア／グローバルインテリアを開催。



グローバルインテリア／現在から近未来の居住空間・情報空間などのインテリアシーンを想定し、20数社が次世代への提案を展示



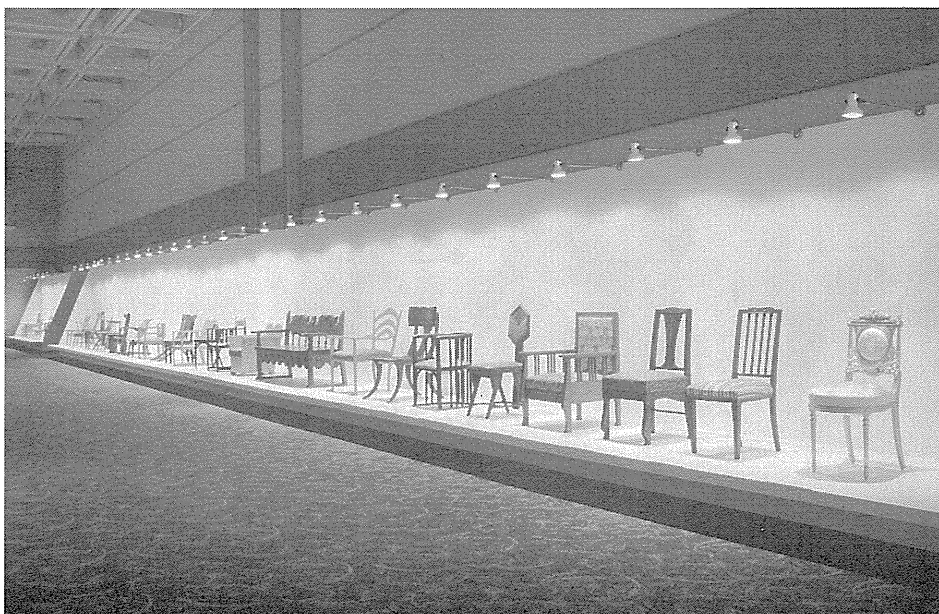
グローバルインテリアの全体を見る



10月4日～8日、白鳥ホールにて国際インテリアデザインフェア／ジャパンインテリアを開催、その導入部



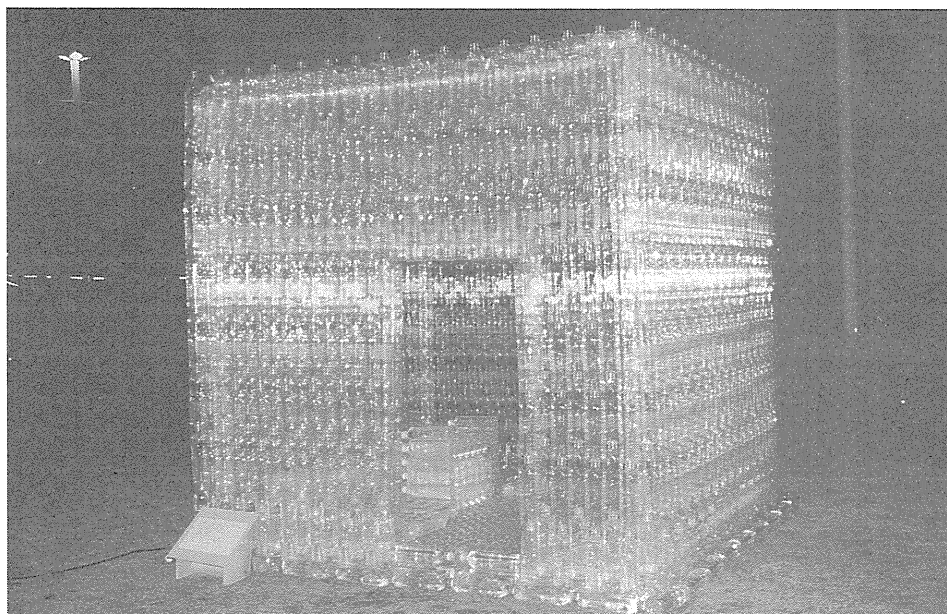
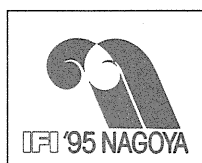
日本の心・伝統・歴史・人物の4つのゾーンで構成、紙、布、木をイサム・ノグチのAKARIで印象的に表現



ジャパンインテリア／明治から現代までの日本の木の椅子 100余点を展示



10月4日～8日、同会議場の中庭及び周辺にて12の「インスタレーション展示」（学生部会主催）



インスタレーション展示の1つ、ペットボトルを組み合わせた空間構成の試み



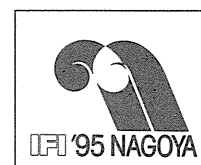
多くの参加者を得た「市民・学生デザインフォーラム」（学生部会主催）



10月4日～8日、フェア参加企画展示の1つ、「世界のインテリアデザイナー作品集パネル展示」(JID)



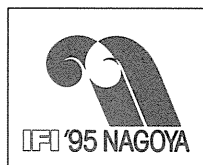
「世界のインテリアデザイナー作品集パネル展示」と、左端はJID登録研究「阪神・淡路大震災」調査報告



10月4日～8日、フェア参加企画展示の1つ、「戦後の中部の代表的なデザインプロダクト」(デザイン・名古屋開催委員会)



10月4日～8日、同時開催の「日本に残るライトの建築展」名古屋の会場入口



ライトの建築展の段ボール紙を使用した質素な展示



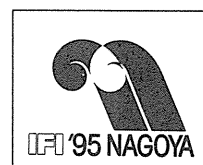
10月4日～8日、フェア参加企画展示の1つ、「デザイン列車パネル展」(名古屋市交通局)
コンペにより選ばれた2種類のデザインにより、名古屋の名城線に運行中('95年9月～'96年4月)



10月4日～8日、「名古屋国際デザインコンペティション優秀作品展」の会場入口



コンペ作品展には、優秀作品 32 点を模型及びパネルで展示



10月4日～6日、分科会「優しさのある空間」への関連展示。エムアンドエムデザイン事務所と JID 登録研究・高齢化社会のインテリア研究会による共同制作

IFI '95名古屋／世界インテリアデザイン会議 総括とアピール

IFI '95名古屋実行委員会委員長 長岡 貞夫
(閉会式の挨拶から)

ここに「世界インテリアデザイン会議」の閉会にあたり、実行委員長として、会議の総括とご挨拶を申し上げます。

10月4日より3日間、「インテリア — 新しいうねりの創造」をテーマに、各会場で繰り広げられたシンポジウム、展覧会、交流パーティでは、私どもの予想をはるかに越えた、大変多くのご参加を頂き、活発な討論と和やかな交流を通じまして、会議が大いに盛り上がりを見せましたことは、主催者の1人として大変嬉しく存じます。

ご承知のように、この会議はアジアで初めての「世界インテリアデザイン会議」であり、36人もの多くの国や地域からのご参加を頂き、盛大に開催することができましたことは、重ねての喜びでございます。

さて、この会議で討論された成果を、セッションの運営を担当しましたプログラム委員会は、以下のように取りまとめました。

この会議は転換期にある現代インテリアデザインの総括として、デザイナーを始め、さまざまなジャンルの人々を結集し、これからのデザインの使命と21世紀への展望を討論致しました。

第1は、「持続可能な社会の実現とデザイン」についてです。

この会議では、人々の営みに最も深く関わる生活環境を中心に、様々な角度から討議いたしました。ここで認められた重要課題は、地球市民として持続可能な社会の実現にデザインがどのように関わるかであり、未来の生活環境の創造に、デザインがどう関わるべきなのかということでした。

会議は東洋と西洋といった比較にとどまらず、それぞれの地球文化の重要性に視点がおかれました。このこと自体も過去と比べれば、全体的な基礎構造を持つグローバルなデザイン思考への移行がなされつつある証であります。そのため、自然及び時間概念がかけがえのないも

のとして新しい意味をもって取り上げられました。

そして、その確立なしには、生活者はおろか地球環境まで犠牲にしかねないことの理解が共通認識になりはじめております。

第2は、「文化と科学の調和とデザイン」についてです。

各討論は創造に関わる美しさや優しさなどの人の感性に関する分野から、伝統技術や教育環境など社会的な分野まで、実にさまざまな領域に渡りました。しかし、それらの中心として、多彩な地域の文化と現代の科学とが、どのように調和を見いだすのかが大きな柱として貫かれていました。また、これらの場面では、デザイナーの1人1人の主体性の確立が真摯に話し合われました。各国の現状を背景に、パネリストの誇りや悩みが率直に語られたことも、その内容の重さを示すものです。

第3は、「エレクトロニクスの発展による影響」についてです。

さまざまな分科会を通して、マルチメディアなど、エレクトロニクスの飛躍的な発展による、デザイン環境の影響の大きさも話し合われました。この発展によって、地球の距離と時間とが極めて小さくなり、情報の伝達や収集が容易になりました。そしてこのことが、現代文明の全体的な把握を深め、私たちのデザインの概念と、その方法の積極的な転換を可能にしたともいえるのであります。

第4は、「デザイン領域の広がり」についてです。

個々の製品、室内環境などの他にも、デザイン領域は大きく広がっています。この広がりを踏まえ、デザインは、都市や自然環境、あるいは社会や経済と複雑に結びついた現代社会を射程に入れるべきであります。この意味からも、インテリアデザインは、むしろ未来を見据えた大きな意味での環境を創作するための活動なのです。静的な「形」のデザインだけでなく、動的な見えないことをもシステムに取り入れる…「関係をデザインする」職能の重要性が認識されました。このことは創り手と使い手の両者にとりまして、新たな地平の発見に結びついてゆくものであります。

以上、4点にわたりまして取りまとめました。

今回の会議において、インテリアデザインの重要性の認識ができたことは大きな収穫です。しかし、同時にその役割の厳しさは、私たちデザイナー個々の自由な創作への自覚を求めるとともに、生活環境形成への義務と責任を求めているのであります。

実り豊かだった今回の会議も、ここに幕を閉じようとしています。会議の結論は、参加者皆様の今後の活躍の場で出されることとして、インテリアデザインに関わる者の、新たな世紀に向かう決意を、アピールしたいと思います。私たちの提案を申し上げますので、お聞きください。

それでは、アピールを読み上げます。

「いま、インテリアデザインの果たすべき役割は、人間の英知の美しい開花のために、美しい自然との共生のために、限りなく広がっています。

私たち生活環境の創造に携わるデザイナーは、属する国家、民族、宗教の違いを越えて、全世界を結集し、21世紀への環境形成に寄与することを誓います。

この会議のテーマとした「NEXT WAVE」が、この名古屋の地から世界規模での新たな活動の機会になるとを希望します。」

今の提案に対し、ご賛同頂けるようでしたら拍手をお願いいたします。

ありがとうございました。

さて、当会議が大過なく所期の目的を達成できましたことは、'91年シカゴのIFI総会で、名古屋開催が決定して以来4年余りにわたる、多くの方からのご支援とご協力の賜でございます。

最後に、もう一度心からお礼申し上げます。

実行委員の皆さん、壇上にお上りください。次期'97年開催地のアイルランドの皆さんもどうぞ、

この会議が成功裡に終わったことを、参加の皆さんに感謝申し上げ、皆さんと共に祝うと共に、次期「IFI '97ダブリン」での開催へ、拍手のウエーブでバトンタッチしたいと思います。いかがでしょうか。

どうもありがとうございました。

海外から届いた礼状

「IFI '95 名古屋」に対して、海外からの礼状が、協会及びJID理事長宛に届いています。

① D. Handy IFI 理事長から

IFIを代表し、IFI '95名古屋総会及び世界インテリアデザイン会議で経験した素晴らしい企画と、友情溢れるもてなしに感謝いたします。これまでで最大のこの会議は、寛容なもてなしと友情によって類いまれな雰囲気のあるものでした。

この成功をもたらした皆様方の関わりと、協力の素晴らしさを一言では言い表せません。

会議開催に携わられた各位に礼状を差し上げるべきところですが、私どもの謝意をお汲み取り頂き、JID、運営会、すべての委員会の1人1人によりしくお伝え下さい。

日本での総会でIFI会員が変わり、新たなエネルギーを得ました。JIDがIFIの内に、本当のインターナショナルスピリットを育むことに貢献されていることを私たちは深く感じております。

後に続くのが難しい国際会議のスタンダードが生まれましたが、今後の国際会議は同じにはなりません。名古屋を越えるのは困難なことに気づくことでしょうか。

② C. Davies アイルランド協会理事から

IFIアイルランド1997年運営会を代表して、JIDに対し、名古屋参加の折りのすべての厚意に感謝を述べ、併せてアイルランド1997への参加呼びかけと再会を願う礼状が届いています。

③他に、ノルウェー協会 S. Hindenes、デンマーク協会 H. Hjort、フィンランド協会 E. Keto、スウェーデン協会 Geijer、IFI前事務局長 Hardenberg の各氏より丁寧な礼状が届いています。

(訳・中川 帛子)

APSDA '96 予備会議を終えて

本部・国際委員会副委員長 李 泰久

この予備会議は、1996年に日本でJCD（社団法人日本商環境設計家協会）のホストにより開催される「第3回 APSDA '96」の予備会議として、JCDにより招集されたものである。IFI '95名古屋のフェアウェルパーティーの直後という慌ただしい時間帯ではあったが、加盟13協会（11ヶ国）のうち7協会（6ヶ国）の出席があった。そして、JID代表として中川帛子・李 泰久の2名が出席した。なお、インドネシア、シンガポール、ホンコン、ニュージーランドとオーストラリア（2協会）の計6協会（5ヶ国）は欠席した。以下に会議の概要を報告する。

注：APSDA（アジア太平洋スペースデザイナー協会）
=ASIA PACIFIC SPACE DESIGNERS
ASSOCIATIONの略

日 時：1995年10月6日（金）

6：30 p.m.～9：00 p.m.

会 場：名古屋国際会議場 231号会議室

6：30 p.m.～8：00 p.m.

懇親会／7F スカイレストラン

8：00 p.m.～9：00 p.m.

参加国：韓国（KOSID）

タイ（TIDA）

台湾（CSID）

フィリピン（PIID）

マレーシア（MSID）

日本（JCD）

日本（JID）

JCDよりの配布物：AGENDA

1部

参加者リスト

1部

APSDA 規約

1部

JCD紹介冊子

1部

JCD機関誌「SHOKANKYO」No.66

1部

APSDA '96開催予定地紹介冊子

福岡 2部

東京（後日JCD事務局より郵送）

会議内容：冒頭にJCD黒川理事長の挨拶、各代表の自己紹介があり、引続き議事に移った。以下はJCDよりの提案及び決定事項である。

開催日：1996年11月7日（木）～9日（土）で決定。

11月7日（木） 受付、総会、分科会、パーティー

11月8日（金） 分科会、フェアウェルパーティー

11月9日（土） オプショナルツアー 他

開催地：現在、東京と福岡の2案で検討中とのこと。決定次第、遅くとも開催6ヶ月前には、JCDよ



「APSDA '96 予備会議」における討議の様子

り各協会に正式案内を送付する。

テーマ：デザインを人間のための「生産」、「消費」、「技術」、という視点から改めて見直すという大前提に立って、以下5つのサブテーマが提案された。

- (1)街造りから見た商業施設
- (2)デザイナーにとってのマルチメディア
- (3)アジアパシフィックのコミュニケーションネットワーク
- (4)アジアパシフィックリージョン共通のデザインコンセプト
- (5)あらためてデザイン行為とは（エコノミーの視点から）

これに対して、各代表はおおむね賛同したが、マレーシア代表より、アジア地域の発展を背景に、そろそろヨーロッパの模倣でなく、アジア独自のパラダイムということを考えても良いのではないか、またフィリピン代表から、伝統から脱却し、新しいものに、より目を向けるべきではないか、という意見が出された。今後6ヶ月以内にこれらの意見をJCDが集約してまとめることになり、具体的方法としては、JCDがそのためのリクエストフォームを作成し、各協会にファックスすることになった。

懇親会：会議終了後スカイレストランに席を移し、ビュッフェスタイルの懇親会が催された。
JCD 高村名誉会長の挨拶の後、各代表の短い

スピーチがあり、和気藹々とした雰囲気の中、最後はJCD 野村副理事長の閉会の挨拶で幕となった。

1995年「JID 賞」選考結果と表彰式

選考委員会委員 森谷 延周

1995年「JID」賞の選考結果は、前号JID NEWSの「速報」の通りですが、今回の応募点数は、インテリアスペース部門46点、インテリアプロダクト部門8点、インテリア研究・著作・業績部門3点、計57点でした。選考は、第1次審査（7月12日、7月31日）、第2次審査（8月9日、8月22日）を経て、最終的に2部門3点選ばれました。

またその表彰式は、去る10月6日「IFI '95 名古屋／世界インテリアデザイン会議」が開催された名古屋国際会議場・センチュリーホールにおいて行われました。

午後2時から、IFI アワード、JID 賞表彰式、ダブリン（次期開催都市）プレゼンテーション、そして閉会式が行われましたが、JID 賞はその間の13時45分から14時10分（25分）という限られた時間でしたが、予め組み立てておいたシナリオによって進められました。

JID 賞の説明、受賞者の発表、審査報告（2面マルチによるスライド併用）そして、丸谷芳正氏の「たためる椅子」のパフォーマンスが終わり、長岡理事長より賞

盾などの贈呈により全ては無事に終了しました。なお、賞盾などの介添は、着物姿がよく似合う、中部事業支部の猪方克子会員がつとめられました。

以下は、受賞された各作品の設計主旨、及び島崎 信選考委員長による審査評です。



「APSDA '96 予備会議」を終ってスカイレストランにて懇親会、挨拶する季 泰久 JID 代表

JID 賞／インテリアスペース部門 「鎌倉女子大学二階堂学舎」

受賞者 来間 一三(株)竹中工務店

●設計主旨

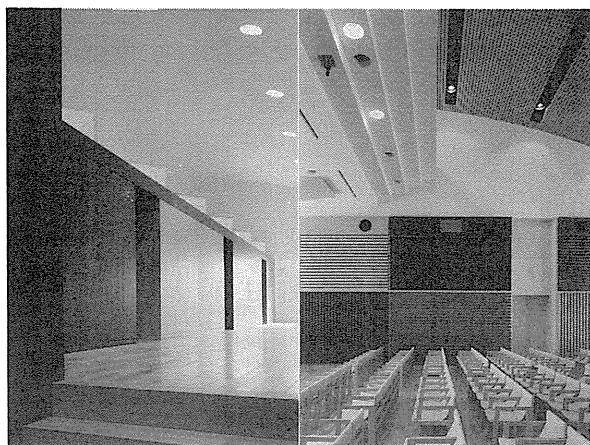
山々に囲まれ、鎌倉の中でも
古都のたたずまいを残す、緑豊
かな二階堂地区に計画された教
育施設である。おおらかで、力
強い硫化銅葺きの大屋根の下に、



「伝統と新しさの共生／内部と外部の語らい」をテーマ
に展開する、新しい学園生活の場を用意した。

300人を収容する記念ホールは、山に向かって大きく
開かれた窓により、光と樹々をインテリアに取り込んだ、
開放的で伸びやかな空間。(丸谷氏によって制作された
「たためる椅子」は、さまざまなレイアウトを可能にす
ると共に、心地よさを与えてくれる。)研究室群は、3
つの閉じた箱としてホワイエ上部に置かれ、その屋根は
和紙を用いて雛壇状に創られた。内部に照明を入れたそ
れは、室内に輝く山並みを想起させる。

インテリアは、白をベースに、三色使いの木、陰影の
ある土壁など自然な素材を用い、たおやかで、優しい空
間となるよう心がけた。それらの場面が、訪れる人々
の中で重なり合い、新たな鎌倉として、記憶に残る場所
になることを期待した。



●審査評

古都鎌倉の環境と、記念ホール、教育施設としての機
能を共存させた、秀れた造形性を評価したい。

屋根の硫化銅に加えて、内部の多彩な木材、そして和
紙の扱いとそれらの素材の組み合わせにも、インテリア
における密度の高い方向を示していると思われる。

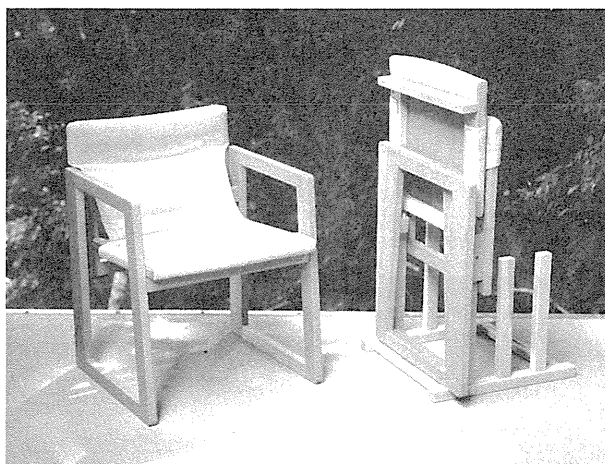
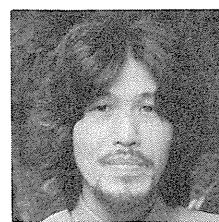
現地での第二次審査において、建築の外部造形と自然
の景観との時間の移行による融合の美しさと、内部空間
からの環境の共存に新しい境地を見せていることなど、
審査委員に強い印象を与えてくれた。

JID 賞／インテリアスペース部門・協力賞 「鎌倉女子大学二階堂学舎のたためる椅子スモールバージョン」

受賞者 丸谷 芳正

●設計主旨

ベースになった「たためる椅子」は日本空間の多目的性に合
うように設計しました。今回は
鎌倉女子大のホールの大きさと
使う人の姿勢に合わせて設計を
やり直しました。



●審査評

鎌倉女子大学二階堂学舎ホールに配置された椅子は、
椅子自身の水準の高さと共に、空間と道具としての椅子
の関係に新たな調和を見せている。

折りたたみ椅子として安定したフォルムを感じさせ、
この椅子抜きにはホール空間を語ることはむずかしいと
いう審査員の一致した意見によって、インテリア・ス
ペース部門への有力な協力姿勢として「協力賞」を授け
ることとした。

JID 賞／インテリア研究・著作・業績部門 「リビングデザインセンター OZONE」

受賞者 根立 光夫

●設計主旨

リビングデザインセンター OZONE は、生活者が快適な居住空間づくりを行うための総合的な情報センターであり、東京ガスグループの社会貢献的な事業として、'94年7月に開設したものである。

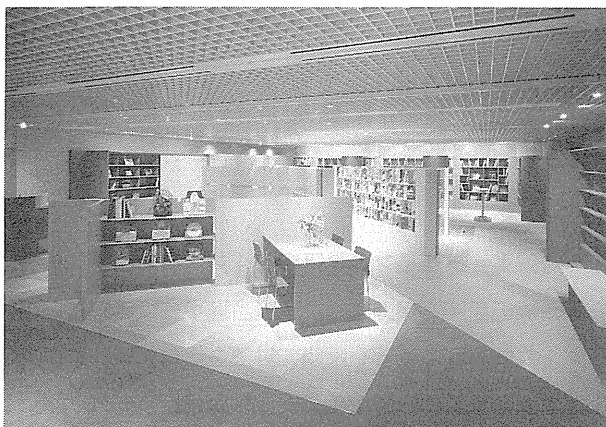


独自の調査をもとに、生活者が住まいやインテリアに関する中立的な情報を得られる場として OZONE を計画した。

施設は、①リビング情報バンク、②25 のショールーム、③ザ・コンランショップ、④4 つのイベント・展示会スペース、⑤セミナールームで構成される。

リビング情報バンクには、データベース、ライブラリー、コンサルティング、サンプル、CG シミュレーションスペースなどがあり、来場者は居住空間に関する幅広い情報を集めることができる。実際に商品を見たい人は、主要メーカーの各ショールームを見て回ることもできる。また、インテリア・雑貨約 5000 点を扱うザ・コンランショップや、年間を通じて展開されるイベントやセミナーは、日々新しい情報を発信し、OZONE をより魅力的な施設としている。

OZONE は、生活者のサポーターとなり、主役である 1 人 1 人の生活者が、自分自身の生活をデザインできる場を目指している。また、インテリアデザイナーやコーディネーター等の専門家やメーカー、生活者が日常的に情報交流できる場としても機能している。



●審査評

1994 年 7 月、東京・新宿に開設された OZONE は、東京ガスグループが快適な居住空間づくりと、総合的なインテリア・オブジェクトという多方面の情報の発信センターとして活発に活動している。発足以来 1 年余に見る活動と展示については、世界にも類を見ないスケールと多様性を伺うことができる。

インテリア関連の情報バンクをはじめ、展示会、セミナーなどに、積極的な姿勢を見せていることを高く評価すると共に、将来に更なる充実、質の高い活動を期待し、その企画と業績に対してインテリア・デザインの職能団体として賛同の意を表したい。

平成 7 ～ 8 年度「選考委員選挙」の報告

選挙管理委員会委員長 今井 滋

任期満了に伴い、次期選考委員（任期平成 7 年 10 月 1 日～平成 9 年 9 月 30 日）の選挙を実施しましたが、開票結果は次のとおりです。

(1)開票日 平成 7 年 9 月 4 日（月）

11：00～17：30

(2)出席者 委員長 今井 滋（名誉会員）

委員 内田正雄（同）

中村圭介（同）

他に事務局より田口康之、高木久美、中浜早苗

計 6 名

(3)開票状況 発送数 772 通

投票数 342 票

（内訳 有効 334 票、無効 8 票）

無効の内訳

定数を越えるもの 3 票

無記入のもの 5 票

(4)開票結果（得票順）

◎長岡 貞夫	99 票	川上 信二	77 票
◎泉 修二	64 票	◎渡辺 優	60 票
◎白石 勝彦	57 票	◎島崎 信	54 票
三輪 正弘	54 票	◎喜多 俊之	53 票
清水 忠男	52 票	◎森谷 延周	51 票

以上 定数 10 名

次点

◎わたなべひろこ 42票 浅野 盛治 40票
◎大野美代子 38票 中川 千早 38票
◎岩倉 榮利 37票

(注) 得票が同数の者については協会歴の古い者を優先する。協会歴が同じ場合は年少者を優先する。

(役員選挙規定第9条第2項)

なお、結果に基づいて、就任の諾否を求めたところ、辞退の申し出があったため、順次繰り上げて打信しました。

その結果、各氏名の◎印を付けた方々を当選者と決定いたしました。

デザイン行政を貿易局から 産業政策局へ移管

理事・事務局長 森谷 延周

当協会の所管として、長年お世話になりました通商産業省貿易局総務課検査デザイン行政室は、去る10月1日付けの組織変更により廃止となり、代わって同省・産業政策局サービス産業課デザイン政策室に移管され、新たにデザイン・新規サービス産業企画官が着任されました。

デザイン政策室では、グッドデザインの選定、デザインに関する調査・研究及び指導、デザインの奨励・振興など、これまで貿易局で携わってきた業務に、産業政策の観点から引き続き携わっていかれると共に、新たな産業を創造するというデザインの重要な役割にも着目されていかれると伺っています。

デザインの政策室のメンバーは次の方々です。

デザイン政策室長	清水 喬雄
振興班長	江塚 尚弘
振興係長	藤井 弓子
奨励係長	杉山 春男
指導班長	(併) 江塚 尚弘
指導係長	(併) 江塚 尚弘

なお、清水デザイン政策室長の役職名は次のようになります。

デザイン政策室長
兼

デザイン・新規サービス産業企画官

平成7年度・第2回理事会報告

①会議名：平成7年度・第2回理事会

②日時：平成7年7月26日(金) 13:30～16:30

③場所：(社)日本インテリアデザイナー協会

本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1

新宿パークタワー8F

④出席者：理事総数15名中(本人出席11名)

(副理事長) 泉 修二

(理事) 浅田弘之、宇賀敏夫、川上信二

小坂希八郎、白石勝彦、中川帛子

中川千年、福田友美、山口道夫

森谷延周(事務局長)

(委任状) 浅野盛治、栢原秀榮、清水忠男、

長岡貞夫

(監事) 榎田 均(欠席)、金子誠之助

⑤議題

I. 議案

第1号議案 デザイン保護研究会「共同見解」承認の件

第2号議案 後援・協賛名義承認の件

第3号議案 会員入退会承認の件

第4号議案 議事録署名人選任の件

II. 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

(2) 平成7年度収支状況報告(6月末日現在)

(3) 平成6年度権利停止者状況(7月21日現在)

(4) 関東通産局関係報告終了

(5) 平成7～8年度選考委員選挙について

(6) (社)商施連・事業委員会委員推薦について

(7) 日本デザイン団体協議会事務局長会議の開催

(8) その他

⑥議事

森谷事務局長より「理事総数15名中、本人出席11名、委任状4名で本理事会は成立した」旨報告。引続き、泉副理事長が議長となり議事に入った。

I. 議案

第1号議案 デザイン保護研究会「共同見解」承認の件

議長兼デザイン保護委員会泉担当理事は、資料に基づき同・共同見解の主旨を説明、討議を重ねた後、最終的には長岡理事長に一任することとした。

第2号議案 後援・協賛名義承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は、下記7件について説明した。議長は承認を諮り、異議なく承認された。

◎「インテリアデザインコンペティション イン大川」 後援

1995年6月1日（木）～1995年10月31日（火）

主催（財）大川総合インテリア産業振興センター

◎「華胥の夢博'95」

後援

1995年10月17日（火）～22日（日）

主催（財）大川総合インテリア産業振興センター

◎「ディスプレイデザイン研究賞'95」

後援

1995年9月18日（月） 応募締切

主催（社）日本ディスプレイデザイン協会

◎「SDA シンポジウム'95 in 福岡」

後援

1995年8月25日（金）

主催（社）日本ディスプレイデザイン協会

◎「ウィルクハーンチャリティーオークションinWest Week」 協賛

1995年5月8日（月）～13日（土）

主催 ウィルクハーン(株)

◎「Asia Package Design in 台北 1995」

協賛

1995年9月22日（金）～28日（木）

主催（社）日本パッケージデザイン協会

◎「'95 東京国際家具見本市」

後援

1995年11月22日（水）～25日（土）

主催（社）国際家具産業振興会

第3号議案 会員入退会承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は下記12件について説明した。議長は、承認を諮り、記入不足の1件を除きいずれも異議なく承認された。

入会 正会員（6件）

氏 名	支部	保 証 推 薦 人
高 橋 吉 美	中部	榎田 均・小玉 靖子
二 部 誠 司	関東	太田 明子・山田健一郎
小 川 千賀子	関東	森谷 延周・小玉 靖子
吉 本 光 一	関西	森谷 延周・福田 友美
渡 辺 和 子	関東	森谷 延周・福田 友美
兵 後 幸 於	関西	山田健一郎・野原 建広

退会 正会員（2件）

氏 名	支部
笠 井 千賀子	関東
池 田 高 明	中部

退会 賛助会員（3件）

社 名	支部
(株)ユーロデザイン	関東
山本工業(株)	関東
ザ・ヒューマン(株)	関東

第4号議案 議事録署名人選任の件（2名）

議長は、宇賀敏夫、川上信二両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

II 報告事項

議長は、各事業支部及び本部各委員会については各担当理事、本部事務局については事務局長に活動に関する報告を求め、それぞれが資料を基に報告した。

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

●関東事業支部（浅野）

浅野担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。

「IFI '95 名古屋」参加登録者勧誘強化を中心に活動している旨報告。

●中部事業支部（宇賀）

池田支部長辞任にともない、支部臨時総会（6月28日）を開催、後任に安藤 清支部長、小柳朝一・松波一夫両副支部長を選任したことを中心に報告。

●関西事業支部（栢原）

栢原担当理事委任出席のため、浅田理事が代理報告。

各委員会の活動状況のほか、大阪デザイン団体連合との会合について報告。

●九州事業支部（中川・千）

支部例会時に「支部会員によるスピーチ」として、継続的に複数会員の自由発言の場を設けたことなどを報告。

●選考委員会（浅野）

浅野理事委任出席のため無し。

●総務委員会（森谷）

懸案の「IDカード」について、9月中旬に無償配布する準備を整えている旨、案内文を基に報告。

●組織委員会（浅田）

若い層の入会を考えた「準会員組織」の検討及び、

名誉会員からの会費徴収について、支部毎の意見交換会やアンケートなどを検討している旨報告。

●国際委員会（中川・帛）

6月上旬フランス・ランス市で開催されたIFI理事會（今秋の名古屋総会における地区選出理事制の提案など）の報告及び、APSDA 予備會議（名古屋）開催などについて報告。

●交流委員会（小坂）

特に大きな進展は無い旨報告。

●広報委員会（川上）

IFI '95 媒体 PR のほか、盛り上げのための法被を製作中と説明、討議の末、継続的に活用できるよう配慮が求められた。

●出版委員会（福田）

「作品集」の9月発行を控え、文字校正など急ピッチで進行中。広告取得やIFI '95 用プレミアムなども決まっている旨状況を報告。

●教育・研究委員会（清水）

清水担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。

登録研究2グループに対する活動を支援するため、発表会やセミナーの開催予定、及びIFI '95 名古屋終了後に全会員対象の「研究セミナー」を計画している旨報告。

●展覧会委員会（山口）

「世界インテリアデザイナー作品集／パネル展」を、IFI '95 名古屋のプレイベントとして、JID 主催により実施する旨、資料に基づいて報告。

来る8月31日～9月12日、東京・新宿・OZONEにて開催予定。

●報酬基準委員会（白石）

商施連・日本商環境設計家協会・JID3 団体共通の報酬基準づくりについて、2 団体より打診があったこと、及び報酬基準の改訂に関して、弁護士のアドバイスを予定している旨報告。

●デザイン保護委員会（泉）

デザイン8 団体による研究会は、8 月で20 回目を数え、同研究会による「報告書」作成は最終段階に入っている旨報告。

●事業委員会（長岡）

メンバー構成を構築中であり、人選の決定次第第

1 回委員会を開催したい旨報告。

●IFI '95 委員会（長岡）

事務局長より通常総会以降から今日までの参加登録促進活動状況、及び7月25日現在の集計表を基に報告。

(2) 平成7年度収支状況報告（6月末日現在）

4月1日～6月30日現在の収支状況を資料に基づいて報告。当初見込みに対して、新年度から間もないこともあり、余り大きな動きは見られない旨報告。

(3) 平成6年度権利停止者状況（7月21日現在）

該当する正会員26名、賛助会員3社について資料を基に報告。

(4) 関東通産局関係報告終了

去る6月28日、例年通り、所定の報告書を関東通産局国際課に提出した旨報告。

(5) 平成7～8年度選考委員選挙について

次期選考委員（任期平成7年10月1日～平成9年9月30日）の選挙実施に関して、その案内を7月17日発送、投票締切日は8月9日、結果に基づいて10月下旬に新旧引継ぎを実施したい旨報告。

(6) 社商施連・事業委員会委員推薦について

当該団体の要請に基づいて、峰尾 武正会員を推薦した旨報告。

(7) 日本デザイン団体協議会事務局長会議の開催

去る7月20日、平成7年度第1回目の会議が開催され、相互の情報交換を中心に話し合われた旨報告。なお、同夜に事務局員を交えた懇親会を開催した。

(8) その他

●通産省異動人事（7月1日付）

江塚 尚弘

（新）検査デザイン行政室 デザイン奨励班長

（旧）特許庁審査第一部

本多 誠一

（新）特許庁審査第一部

（旧）検査デザイン行政室 デザイン奨励班長

●年間行事予定表

●本部事務局夏期休暇予定（8月14日～17日）

●次回理事会開催予定（'95第3回）

平成7年9月20日（水）

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれ了承した。

〔 平成7年度・第3回理事会報告 〕

①会議名：平成7年度・第3回理事会

②日 時：平成7年9月20日（金）13：30～16：30

③場 所：(株)日本インテリアデザイナー協会

本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1

新宿パークタワー8F

④出席者：理事総数15名中（本人出席9名）

（理事長）長岡貞夫

（副理事長）泉 修二、栢原秀榮

（理 事）川上信二、白石勝彦、中川帛子

中川千年、福田友美

森谷延周（事務局長）

（委任状）浅田弘之、浅野盛治、宇賀敏夫

小坂希八郎、清水忠男、山口道夫

（監 事）榎田 均、金子誠之助

⑤議 題

I. 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

第2号議案 会員入退会承認の件

第3号議案 議事録署名人選任の件

II. 報告事項

- (1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況
- (2) 平成7～8年度選考委員選挙開票結果
- (3) 1995年「JID賞」選考結果
- (4) 大阪デザイン団体連合「年会費」改訂申請について
- (5) その他

⑥議 事

森谷事務局長より「理事総数15名中、本人出席9名、委任状6名で本理事会は成立した」旨報告。引続き、長岡理事長が議長となり議事に入った。

I. 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は、下記6件について説明した。議長は承認を諮り、異議なく承認された。

◎「第1回 インテリア関連（店舗）総合博覧会」 協賛
1995年11月30日（木）～12月3日（日）

主催 アジア太平洋トレードセンター(株)／(株)店舗システム協会

◎'96 JAPAN SHOP（第25回店舗総合見本市）」 協賛

1996年1月31日（水）～2月3日（土）

主催 (株)店舗システム協会、日本経済新聞社

◎「アジア太平洋デザイン交流会議'95」 協賛

1995年10月9日（月）、11日（水）

主催 (株)国際デザイン交流協会

◎「JAPANTECH '96」 協賛

1996年1月24日（水）～27日（土）

主催 (株)日本インテリアファブリックス協会

◎「デザインの揺籃時代」展 後援

1996年1月14日（日）～3月24日

主催 松戸市教育委員会

◎「国際デザイン・コンベンション'95 海南」 協賛

1995年11月10日（金）

主催 (株)日本産業デザイン振興会

第2号議案 会員入退会承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は下記7件について説明した。議長は、承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

入会 正会員（6件）

氏 名	支部	保 証 推 薦 人
中 島 明 美	九州	金堀 一郎・小田 一美
橋 本 礼 瑚	関東	小玉 靖子・樋浦 洋行
出 水 裕 子	中部	坂田 守正・関 里繪子
山 村 悟	関西	森谷 延周・夏原 晃子
大 隅 照 雄	関東	泉 修二・野村禮七郎
佐 藤 清 子	関東	中村 昇・岡部 史子

入会 賛助会員（1件）

社 名	支部	紹 介 者
株式会社 シック	関東	佐 藤 敬

第3号議案 議事録署名人選任の件（2名）

議長は、白石勝彦、中川帛子両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

II 報告事項

議長は、各事業支部及び本部各委員会については各担当理事、本部事務局については事務局長に活動に関する報告を求め、それぞれが資料を基に報告した。

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

● 関東事業支部（浅野）

浅野担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。支部情報誌「BOSH」の一時休刊に関して説明、内容や編集スタッフの刷新を図り、来春の再刊予定を報告。

● 中部事業支部（宇賀）

宇賀担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。「IFI '95 名古屋」への支部会員全員参加の議決を踏まえて、その努力を重ねていること、及び「JIDハウス」の設置準備について報告。

● 関西事業支部（栢原）

大阪デザイン団体連合関係の会合、及び今後の支部運営に関して支部運営会を開催したこと、さらに10月のセミナー予定や11月の「ECHO」発行予定について報告。

● 九州事業支部（中川・千）

「IFI '95 名古屋」への参加取りまとめ、及び支部例会の様子、さらに9月の予定について報告。

● 選考委員会（浅野）

浅野理事委任出席のため、事務局長が代理報告。1995年「JID賞」応募点数、審査経過、受賞作品などについて報告後、10月6日の表彰式（名古屋国際会議場）の計画概要を説明した。

● 総務委員会（森谷）

会員証を兼ねたIDカードの製作を完了、9月12日に配布したこと、及び1995年「JID賞」表彰式の準備について報告。

● 組織委員会（浅田）

準会員組織の検討、及び名誉会員からの会費徴収などの検討のため、10月末～11月初旬に全国会議を開催したい旨報告。

● 国際委員会（中川・帛）

IFI総会（名古屋）の中心議題と、この機会に配布予定の「JID欧文会員名簿」の進行状況、及びAPSDA予備会議（名古屋）への対応などを報告。

● 交流委員会（小坂）

小坂担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。「IFI '95 名古屋」開催時の「JIDハウス」設置に協力している旨報告。

● 広報委員会（川上）

「IFI '95 名古屋」で着用する法被の製作と目的、媒体へのインタビュー対応などのほか、「IFI '95 名古屋」閉幕後の広報委員会としての「まとめ」の在り方について検討している旨報告。

● 出版委員会（福田）

「作品集」の完成予定（9月20日以降）、発行部数（国内3500部海外1010部）仕様、価格（7600円）、販売計画のほか、出版記念の講演とパーティー（9月28日）開催予定などについて報告。さらに事務局長より、「作品集／パネル展」4支部巡回プランについて補足説明があった。

● 教育・研究委員会（清水）

清水担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。「JID登録研究」2グループの研究成果発表会の年度内開催、及び「IFI '95 名古屋」の会場の一角に、一部のデータをパネル展示する旨報告。

● 展覧会委員会（山口）

「木工と漆の10人展」の準備状況、及び「作品集／パネル展」の巡回開催（11月30日～12月3日アジア太平洋トレードセンター）について、関西事業支部の受け入れを報告。

● 報酬基準委員会（白石）

報酬基準の改訂に関して、その後の検討経過を資料に基づいて説明、「報酬基準のガイドライン」とした上、11月中完成を目途に進める旨報告。

● デザイン保護委員会（泉）

報告書「デザインを著作権」は近日中に完成、10月2日に記者発表を行う予定であること、及び次のステップとして、文化庁に対して第2回「要望書」の提出を考えている旨報告。

● 事業委員会（長岡）

委員長のもとで検討事項を作成中、「IFI '95 名古屋」閉幕後に第1回委員会を開催予定と報告。

● IFI '95委員会（長岡）

事務局長より9月19日現在の参加登録状況を説明、併せて委員長が、参加登録数確保への努力と「JIDハウス」への参加を要望した。

(2) 平成7～8年度選考委員選挙開票結果

去る9月4日、本部事務局に今井 滋委員長他5名にて開票を行った。開票結果は資料の通りとし、諾否

を確認の上、10月末には前任者からの引き継ぎを行う予定と報告。

(3) 1995年「JID賞」選考結果

前記(1)選考委員会報告に同じ。

(4) 大阪デザイン団体連合「年会費」改訂申請について

同連合より、14年来据置の「年会費」の改正について検討依頼が届いていることを報告。次回理事会にて議案として審議することとした。

(5) その他

●平成7年度デザイン功労者、及び平成8年度春季叙勲候補者推薦について

●訃報 賛助会員

(株)ローム 代表取締役会長 宮川 武男

平成7年8月3日逝去 享年81才

●次回理事会開催予定('95 第4回)

平成7年11月22日(水)

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれ了承した。

「世界のインテリアデザイナー作品集」の頒布にご協力を

機関誌「インテリアデザイン」115+116号を合わせた特別企画として、「世界のインテリアデザイナー作品集」をJIDとして、編集・発行いたしました。

お手元の「贈呈誌」をもとに、ぜひ頒布にご協力下さい。会員価格は20%引です。ご注文については、本部事務局にお問い合わせ下さい。(Tel 03-5322-6560 Fax 03-5322-6559)

お支払い方法：発送時に請求書と振替用紙を同封いたしますので、ご利用ください。

書籍代金 1冊の場合：定価7,600円の20%引6,080円+送料450円 計 6,530円

2冊の場合：定価15,200円の20%引12,160円+送料590円 計 12,750円

3冊以上の場合：割引率は同様とし、宅急便により「運賃着払い」とします。

平成7年特定サービス産業実態調査

通商産業大臣官房調査統計部より、調査実施に伴う協力要請が来ております。

この調査の目的は、サービス産業の実態を明らかにし、サービス産業に関する施策の基礎資料を得ることにあります。(平成7年11月1日現在)

この中の業種には「デザイン業」も加えられており、個々の会員オフィスに調査票の配布、訪問があるかと思えます。その節はご協力のほどよろしくお願いいたします。(JID本部事務局)

次期「役員」選挙の投票締切は12月14日

選挙管理委員会委員長 今井 滋

本年は、2年任期の役員選挙が行われます。次期(任期平成8年4月1日～平成10年3月31日)の役員を、送付済みの「役員選挙規定」「投票案内と投票用紙」によって実施いたします。

投票は選挙人の2分の1以上の投票がないと成立しません。正会員として大切な権利行使ですので、投票締切日の「12月14日まで」に必ず投票してください。よろしくお願いいたします。

【新入会員の紹介】

●新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

●正会員

会員名及び番号		住所及び電話
なかしま あけみ 中島 明美 会員番号 1111 	〈勤務先・事務所〉 〈自宅〉 〈推薦者〉	(株)ヨナシロ 沖縄県具志川市江洲332 〒904-22 TEL 098-973-2222 FAX 098-973-0379 沖縄県沖縄市古謝1054 〒904-21 TEL 098-939-0256 金堀 一郎・小田 一美

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
はし もと れい こ 橋 本 礼 瑚 会員番号 1112 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	C & D 東京都千代田区神田佐久間町2-2-1 小宮ビル6F 〒101 TEL 03-3862-5030 FAX 03-3862-5035 神奈川県川崎市宮前区水沢3-1-8-408 〒216 TEL 044-976-9810 小玉 靖子・樋浦 洋行
で みず ひろ こ 出 水 裕 子 会員番号 1113 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(有)デミズ建築工房 福井県福井市大願寺3-7-14 〒910 TEL 0776-21-8197 FAX 0776-21-8088 福井県福井市大願寺3-7-14 〒910 TEL 0776-21-8197 FAX 0776-21-8088 坂田 守正・関 里繪子
やま むら さとる 山 村 悟 会員番号 1114 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	大阪産業大学 工学部 環境デザイン学科 大阪府大東市中垣内3-1-1 〒574 TEL 0720-75-3001 FAX 0720-70-7857 京都府向日市上植野町堂ノ前5-3 イトーピアA216 〒617 TEL・FAX 075-933-8936 森谷 延周・夏原 晃子
おお すみ てる お 大 隅 照 雄 会員番号 1115 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)進工舎 東京都大田区大森本町1-1-1-1316 〒143 TEL 03-3763-7187 FAX 03-3763-9281 東京都大田区大森本町1-1-1-1316 〒143 TEL 03-3763-7187 FAX 03-3763-9281 泉 修二・野村 禮七郎
さ どう せい こ 佐 藤 清 子 会員番号 1116 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)オフィス・メイ 北海道札幌市北区北32条西10丁目173-5 〒001 TEL 011-726-6480 FAX 011-726-6422 北海道江別市大麻高町9-1 〒069 TEL 011-386-8118 FAX 011-386-8716 中村 昇・岡部 史子

●賛助会員

会員名及び番号		住 所 ・ 電 話 及 び 担 当 者
株式会社シィック 会員番号 3153	住 所 担 当 者 紹 介 者	静岡県沼津市神田町5-1 〒410 TEL 0559-22-9395 FAX 0559-22-9398 代表取締役 亀井 竹雄 佐藤 敬

[会 員 の 異 動]

●ご面倒でも1995～1996年版「会員名簿」の該当ページを開けて、ご訂正下さい。

●正会員

会 員 名	異 動 事 項	新
今 井 滋 (名誉 P31)	自宅移転	東京都葛飾区青戸3-19-10-204
飯 田 公 久 (関東 P48)	事務所移転	東京都千代田区神田神保町1-3 〒101 TEL 03-3296-0567 FAX 03-3296-1510
石 井 静 香 (関東 P50)	事務所移転	東京都世田谷区三軒茶屋2-54-8-205 〒154 TEL・FAX 03-5486-0375
石 川 尚 (関東 P50)	事務所移転	東京都渋谷区千駄ヶ谷3-53-17 クリーンハイツ 408 〒151 TEL 03-3401-6013 FAX 03-3401-4794
石 沢 洋 生 (関東 P50)	勤務先	フリーランサー
伊集院 俊 (関東 P51)	自宅移転	東京都練馬区東大泉6-47-15 アプローズ 大泉学園412 〒178 TEL 03-5387-4563
斎 藤 悟 (関東 P80)	事務所開設	(有)ウェイク 埼玉県新座市新堀2-5-31 〒352 TEL 0424-75-7442 FAX 0424-74-9913
斉 藤 武 行 (関東 P81)	自宅移転	東京都小金井市東町1-13-39 〒184 TEL 0423-82-9087
松 浦 弾 (関東 P125)	事務所移転	東京都港区愛宕1-6-7 愛宕山弁護士ビル303号 〒105 TEL 03-3433-7310 FAX 03-3433-7334
水 野 信 策 (関東 P128)	事務所開設	Qアソシエイツ(有) 東京都新宿区若葉1-16-102 〒160 TEL 03-3226-8087 FAX 03-3226-7097
村 上 保 (関東 P132)	事務所開設	Qアソシエイツ(有) 東京都新宿区若葉1-16-102 〒160 TEL 03-3226-8087 FAX 03-3226-7097
安 松 一 雄 (関東 P135)	自宅移転	東京都八王子市大和田町1-23-7 ガーデンコート八王子104 〒192 TEL・FAX 0426-46-4158

会 員 名	異 動 事 項	新
山 下 禮 子 (関東 P137)	FAX 番号	TEL・FAX 0424-84-5732
吉 井 祐 子 (関東 P140)	事務所移転	東京都中野区弥生町4-6-14-303 〒164 TEL・FAX 03-3383-5815
吉 池 守 (関東 P140)	事務所移転	埼玉県狭山市入間川2-5-29 日神パレス207 〒350-13 TEL・FAX 0429-53-5364
竹 園 肇 (中部 P152)	改名 自宅移転 支部移動	竹園 康志 東京都国分寺市西町2-34-37 〒185 TEL 0425-74-0232 関東事業支部 (中部事業支部より)
上 田 隆 則 (関西 P164)	事務所移転	大阪府大阪市西区立売堀2-4-4 永瑞ビル601 〒550 TEL・FAX 06-536-6989
宇 野 隆 (関西 P165)	事務所開設	UNO DESIGN 京都府京都市中京区両替町通り御池下ル龍池町424-1 DAIDO 御池ビル9F 〒604 TEL・FAX 075-221-4884
尾 畑 祐 司 (関西 P167)	自宅・事務所 移転	大阪府箕面市半町3-5-B205 日商岩井箕面ハイツ 〒562 TEL・FAX 0727-24-6840

●賛助会員

会 員 名	異 動 事 項	新
すずらん工業株式会社 (賛助 P210)	社名変更	シーリーベッド株式会社
株式会社横浜高島屋 (賛助 P226)	社名変更	株式会社高島屋横浜店
ウィルクハーン株式会社 (賛助 P206)	社名変更 担当者	ウィルクハーン・ジャパン株式会社 営業担当 小野寺 俊英
株式会社内田洋行 (賛助 P206)	移転	東京都江東区潮見2-9-15 〒135 TEL 03-5634-6248 FAX 03-5634-6835
株式会社アトリエ・エイティエイト (賛助 P204)	担当者	堀内 優子

1995/10～11

1995年11月30日発行 社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報 (1995年通巻189号)

編集／発行・社団法人 日本インテリアデザイナー協会事務局 印刷所・有限会社 コーエイ企画

〒160 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559